



XBRL International



www.XBRL.org



日本銀行におけるXBRLへの取組みについて

—— XBRL – Japan 大阪セミナー ——

2006年9月15日

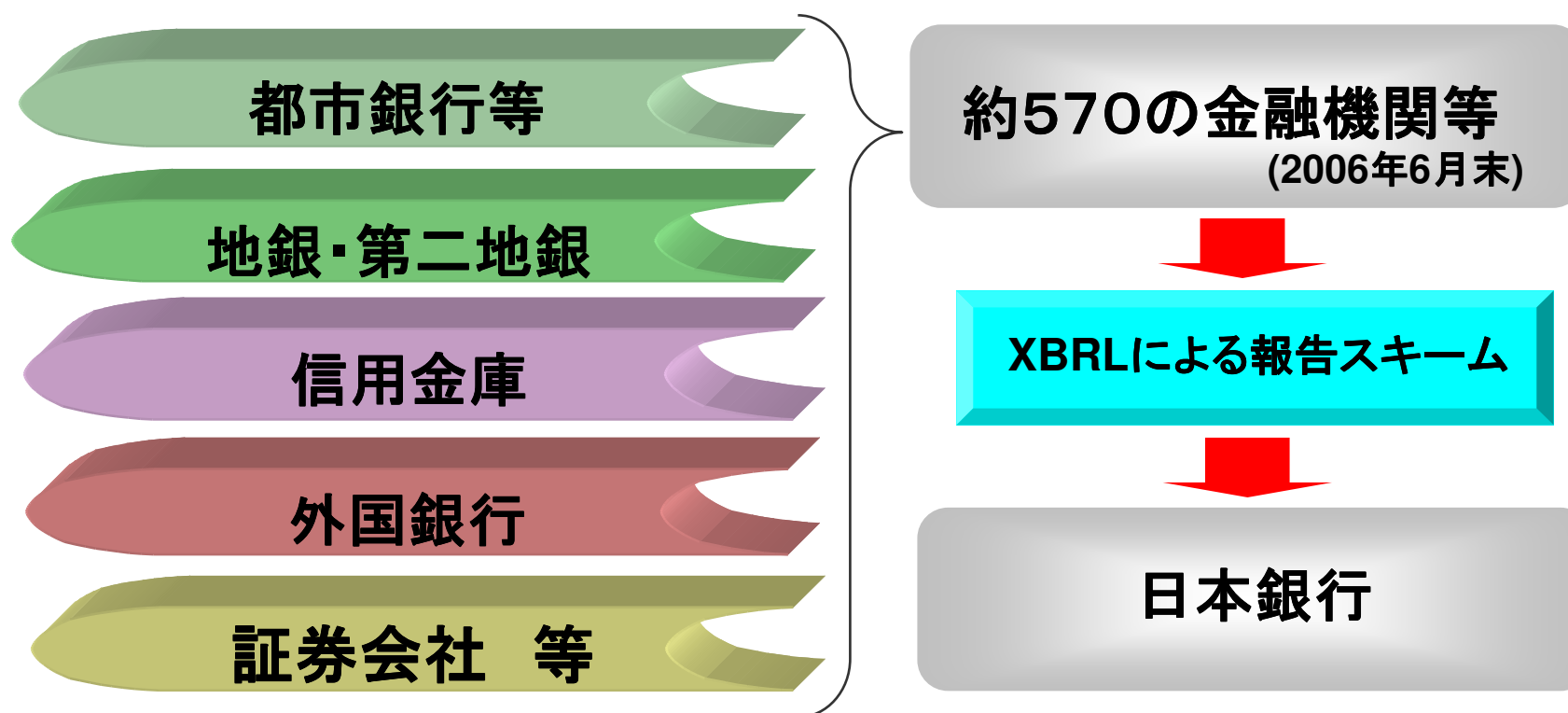
日本銀行金融機構局
和田 芳明

Transforming Business Reporting



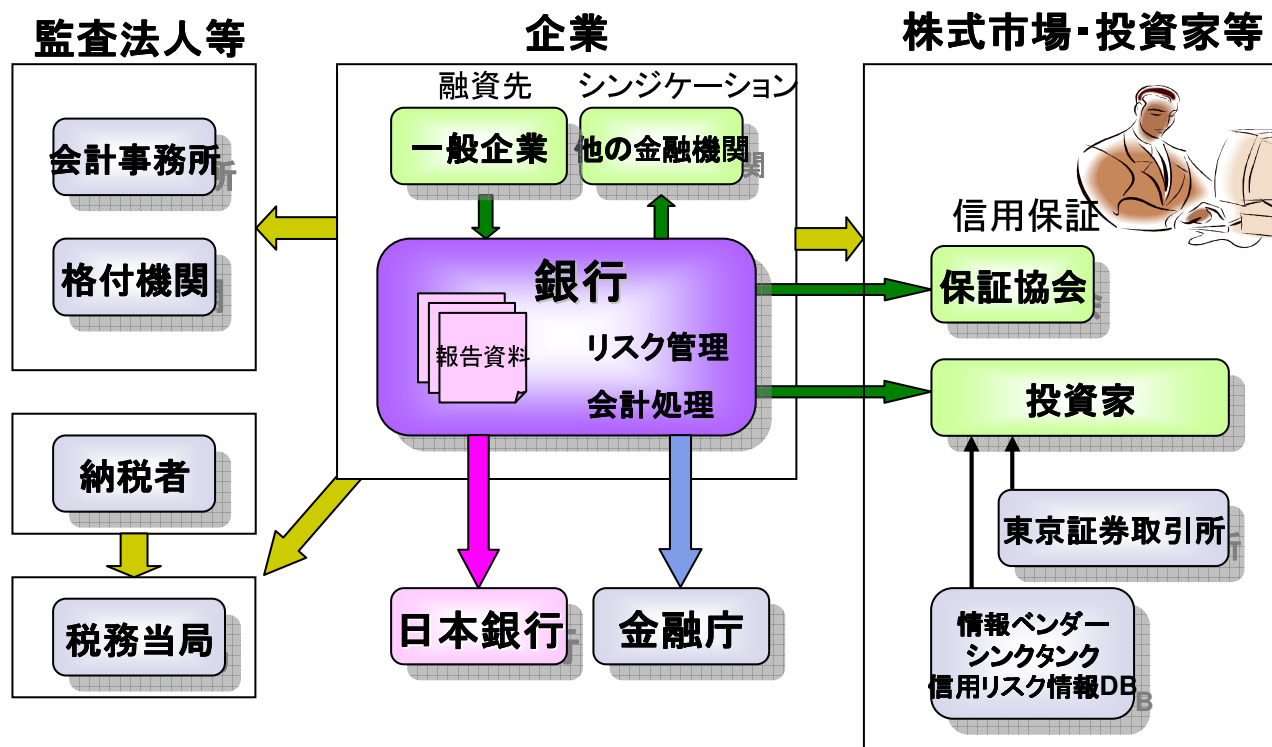
1. 日本銀行におけるプロジェクトの概要

目的：日本銀行の取引先金融機関等との間で、XBRLを用いたデータ報告スキームを構築すること



2. 日本銀行がXBRLに取り組んだ背景

—— 金融情報サプライチェーンの効率化



(課題)

- 電子化されている財務情報でも、ファイル形式によっては、必ずしも他のコンピュータで再利用することが容易ではないこと。
- このため、同じような財務情報が、紙や電子ベースで何度もやり取りされていること。

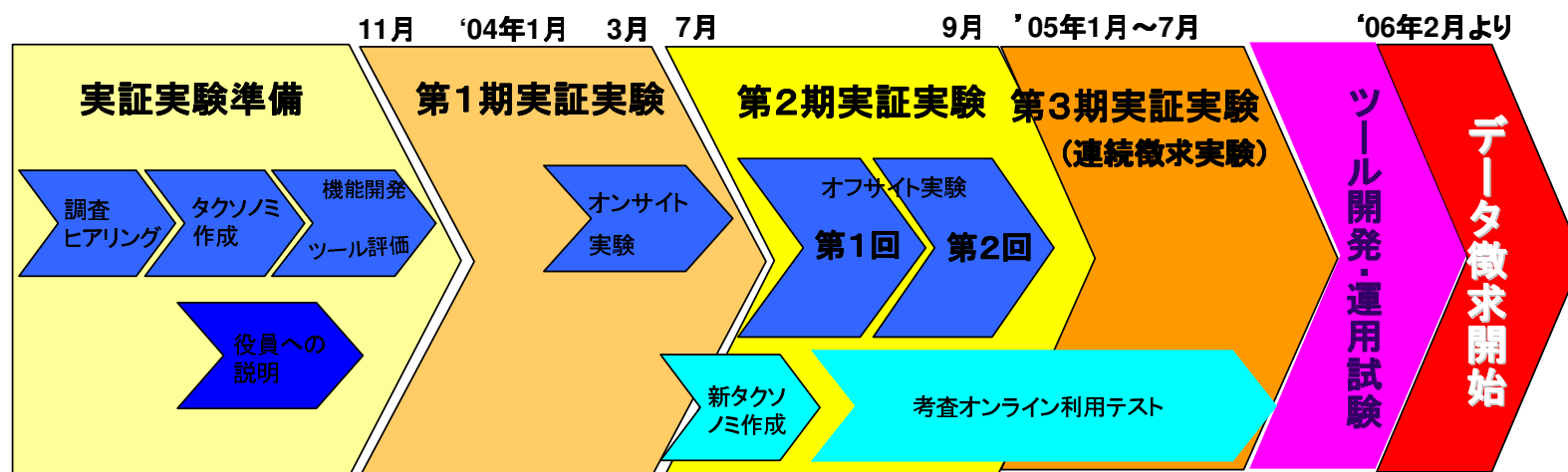


- XBRLを活用することで、情報の再利用性が高まり、授受コストの低下が期待可能
- その結果として、金融情報インフラの効率化、金融システムの高度化が期待可能



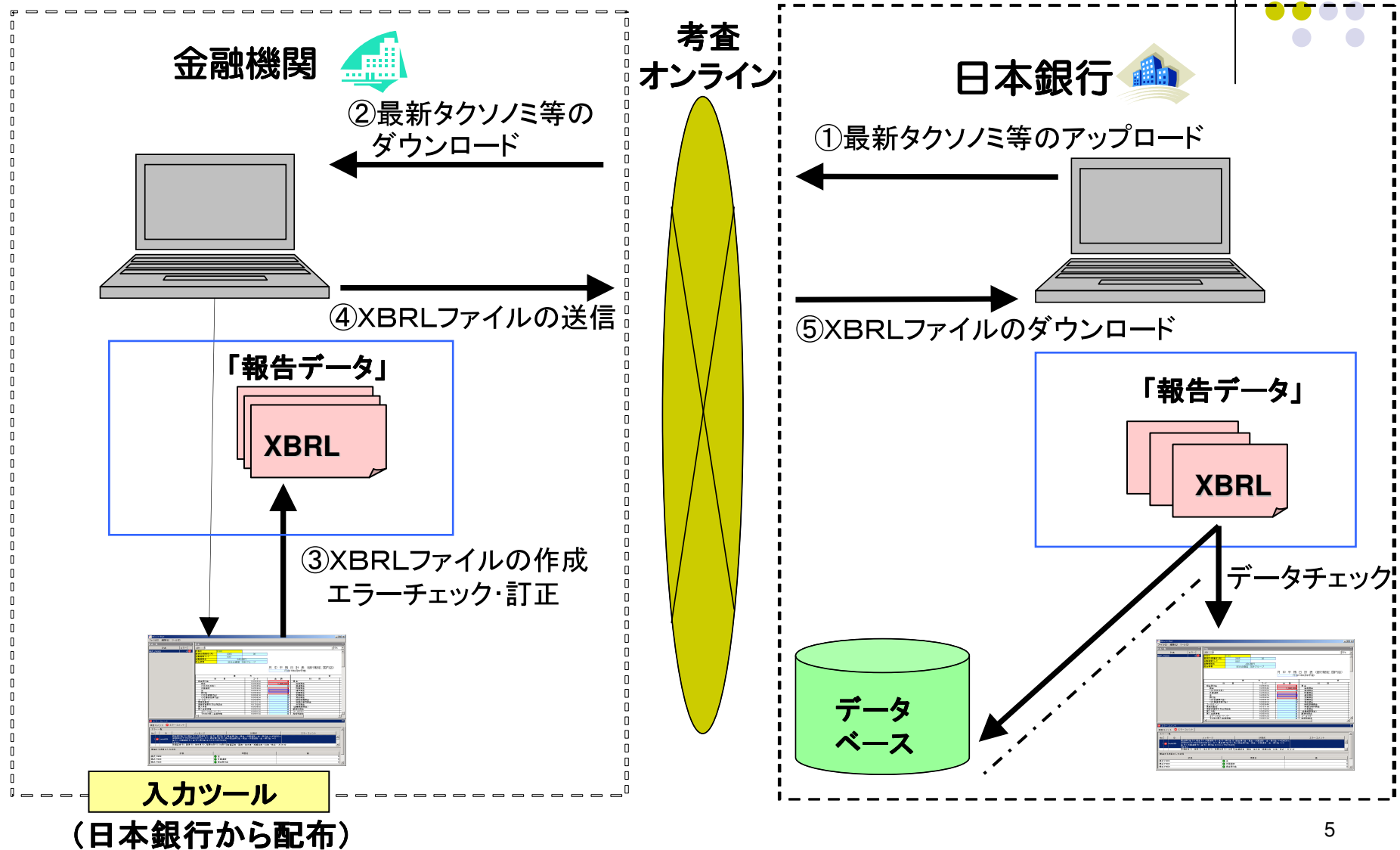
3. プロジェクトの歩み

- 2003年秋から基礎研究に着手
- 3期にわたる実証実験を経て実用化の可能性を確認
- 報告スキームを確定した後、2005年夏より、報告データをXBRLに変換するツールの開発に着手
- 2005年12月にはXBRLをテーマにした金融高度化セミナーを開催
- 2006年1月に金融機関との最終稼動試験を実施、2月より、本番稼動を開始（当初は約500先の金融機関と月次のB/Sデータの授受を開始）
- 2006年6月には、報告内容の改訂に伴うタクソノミ更新も実施



月次B/SのXBRL形式による授受を開始

4. 報告スキームのイメージ



5. スキームの特長



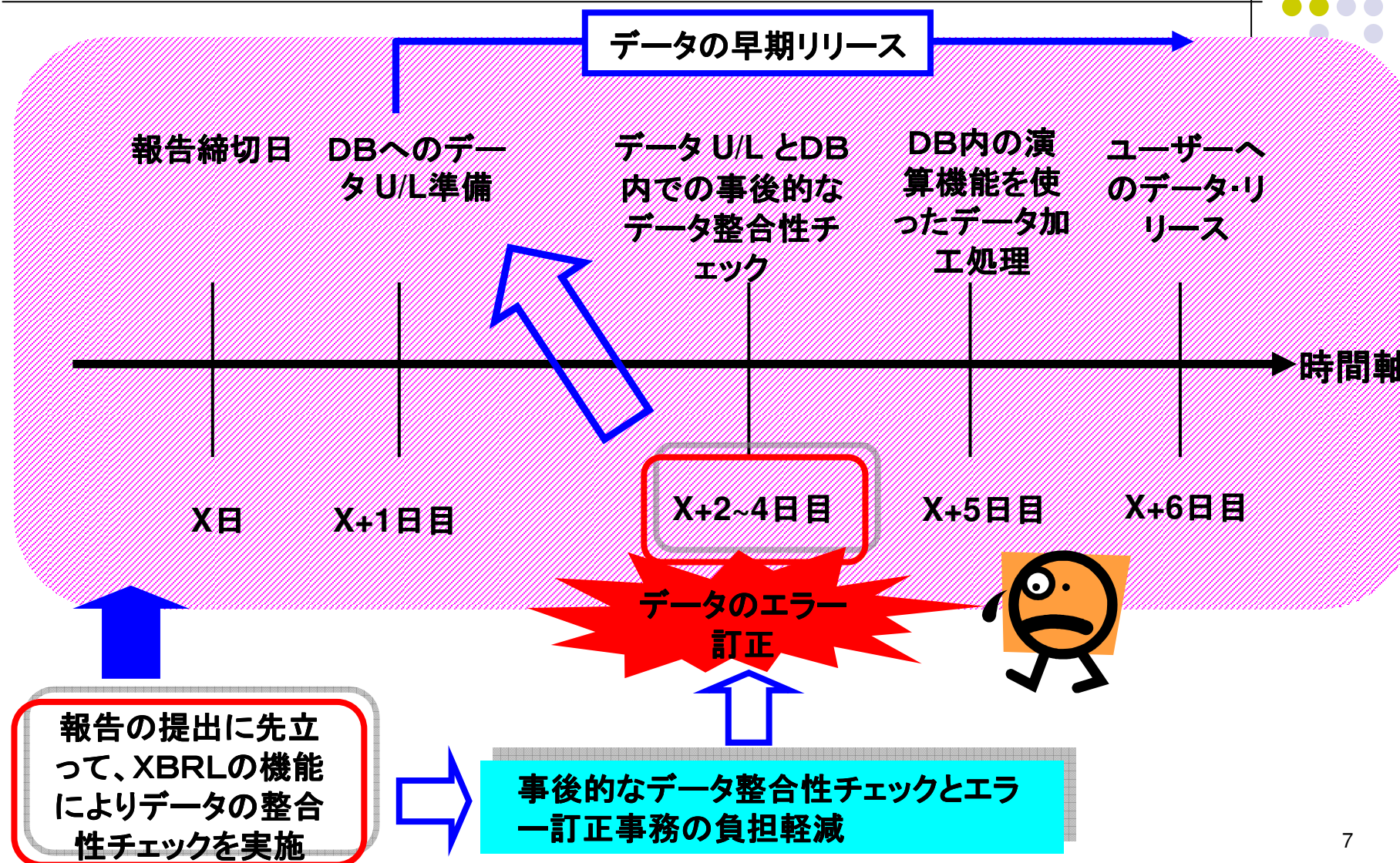
(1) ツールの基本仕様

- ・ EXCEL から XBRL へのデータ変換機能を装備
- ・ XBRL の最新スペック Ver 2.1 に準拠
- ・ Formula-Linkによる強力なエラーチェック機能を実現
- ・ データ内容やエラーの理由等に関するコメント機能を装備
- ・ 操作が容易であること

(2) 留意事項

- ・ ツールは日本銀行から金融機関等は無償配布
- ・ XBRLでの提出は義務化されていないが、金融機関のご理解・ご協力により、対象となった報告データのXBRLでの提出率は100%

6. XBRL導入に伴う事務フローの変化



7. DEMO



8. 今後の課題

➤ XBRLによる報告対象データの拡大

- ✓ XBRLの特性を活かした形での報告対象データの拡大(預金や金利、決算関係など他の報告計表も対象に)

➤ XBRLデータベース・分析ツールの開発

- ✓ XBRLの特性を活かせるDB、データ分析ツールの検討・開発

➤ 効率的なタクソノミー管理

- ✓ 報告書式の改訂に迅速に対応できるタクソノミー保守体制
- ✓ 報告金融機関が所定の報告に対応したタクソノミーを確実に利用できる体制
- ✓ 過去の訂正報告に備えたタクソノミーライブラリーの整備

9. XBRL実用化の3つのポイント



➤ メタデータ(タクソノミー等)の開発

➤ XBRLデータ作成のためのツールの開発

➤ 全体の事務フローを支えるビジネスモデルの確立

ご清聴有難うございました